

皮心伝心

他業種の方に学ぶ

先日、祖父の法事があり、お寺の住職さんとお話する機会を得ました。「仏の御心」の大切さについて十分ご説明いただき、他者に対する寛大さ、包容力の重要性をあらためて認識しました。仏教徒でありながら、仕事において「仏の御心」を見失っていた毎日をすごしていた筆者は大いに反省いたしました。

続いて小学生の長女が通わせていただいている塾の説明会に参加し、塾の講師の先生方のお話を拝聴し、先生方の教育に対する熱い情熱に圧倒されました。筆者が塾に行っていた数十年前は、授業ものんびりとしていて、塾に通う主目的は授業を受けるよりもむしろ他の小学校の生徒さんに会いに行くという雰囲気が強かったのですが、時代の変遷もありますためか、塾の様子は全く異なっておりました。

塾の校長先生は本当に多くの生徒の学力、性格、個性をよく把握し、進路についてもいろいろな角度で考えておられ感心いたしました。同じ「先生」と呼ばれながら、筆者と大違いです。塾の先生を見習い、学生教育に対する姿勢を少しずつ改めていきたいと猛省しました。

現在、毎日の仕事の中で他業種の方とじっくり話し合う機会は筆者には少ないです。医療関係以外のお仕事をしておられる入院患者さんは多いですが、ゆっくり世界観、人生観を拝聴できるケースは稀です。学会に出かけましても、皮膚科医とあとはせいぜい他科の医療関係者、基礎の研究者の講演を聞いたり、談笑することがほとんどです。

こうした狭い世界でのつきあいを中心になりますと、どうしても視野が狭くなってしまう傾向になります。視野は広ければ広いに越したことはありません。今回は家族の都合でさまざまな職種の方とお話させていただきましたが、できたら、今後このような機会をある程度意識的に自分から作っていったほうがいいのではないかと感じました。

同じような職種、あるいは利害関係のある職種同士でのつきあいに限定されますと、同業種の間では常識になっていることでも社会全体ではあまり知られていないことに気づかないかもしれません。社会全体の中での皮膚科医のあり方を考える上でも他の仕事におつきの方のご意見を伺い、参考にさせていただく重要性について再認識しました。

中村 元信

(産業医科大学皮膚科学 教授)